

総合医学会報告

シンポジウム：各政策医療の展開と独立行政法人化

第58回国立病院療養所総合医学会
(平成15年10月31日 於 札幌)

座長 宮崎久義 木村 格

座長の要約

要旨 国立病院・療養所は本年4月1日をもって独立行政法人国立病院機構として新たな出発を迎える。19分野にわたる政策医療の実施、展開は独立行政法人の要となる使命であり、その成否は今後の独立行政法人運営の方向を左右する。独立行政法人化にともなう制度設計もすべてが明らかにはなっていないこの時点で、各領域の代表のシンポジストに今後の政策医療に展開を総括していただくことは必ずしも容易ではなかったと思われる。しかし国立病院・療養所の所属するすべての者は全国を網羅する政策医療ネットワークに大きな価値を見出し、独立行政法人化によって大きく飛躍することを期待している。このことはご発表の中で強調された。

さらにこの期待の実現のためには解決すべき共通課題も浮かび上がってきた。国立病院機構が国民により認知されるためには質のよい医療を実践し、成績を積み重ね、それを公表すると共に、臨床研究の分野で成果をあげ、それを情報発信してゆくことであろう。全国を網羅する政策医療ネットワークを十分機能させるためには分野や施設ごとに格差のない基盤整備、その予算措置が必要であり、特に施設格差のない人的資源供給のためには施設間でのより積極的な人事交流も提言された。

医療経済的視点はもちろん重要であり、今後の法人化の中核をなすものとなるが、全国を網羅した政策医療という共通目的に沿って努力を続けている地域の国立病院や療養所を活性化し、ネットワークの重要なメンバーとして活用してゆく努力もまた必要と考える。物心両面において、ネットワークを活用した法人全体のレベルアップが望まれる。そしてその最大の戦略手段となるのが政策医療の展開であろう。

(キーワード：政策医療ネットワーク、独立行政法人化、国立病院・療養所、国立病院機構、再編成)

EVOLUTION OF POLICY-BASED MEDICINE NETWORKS IN A NEW NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION (NHO)

Chairpersons : Hisayoshi MIYAZAKI and Itaru KIMURA

Abstract Reorganization of 154 national hospitals and national sanatoria has paved the way for a policy-based agency : National Hospital Organization (NHO). The major direction of NHO is to extend the policy-based medicine over 19 medical specialties, utilizing the NHO medical service network. The 19 policy-based medicine networks include circulation, cancer, hematology, immunology

国立熊本病院 (現：独立行政法人国立病院機構熊本医療センター) National Kumamoto Hospital 院長
国立療養所西多賀病院 (現：独立行政法人国立病院機構西多賀病院) Nishi-taga National Hospital 院長
Address for reprints : Itaru Kimura, Director, National Hospital Organization Nishi-taga
Hospital, 11-11-2 Kagitori-Honmachi, Taihaku-Ku, Sendai-Shi 982-8555, JAPAN

Received February 2, 2004

Accepted March 19, 2004

(allergic and rheumatic diseases), metabolic and endocrine disorders (diabetes mellitus), tuberculosis, intractable neurological disorders, sensory organ disorders, bone and motor system disorders, liver diseases, kidney diseases, pediatric medicine, international medical cooperation, and so on.

In this symposium, we had eleven speakers of 10 policy-based medicine networks, (circulation, cancer, hematology, endocrine and metabolism disorders, immunology, bone and motor system disorders, liver and kidney diseases and sensory organ disorders) out of the 19 fields and a specialist from the planning office of the Government. They presented underlying problems and future possibilities in each field of the policy-based medicine network and an outline of the agency framework. Through the symposium, the following issues, which need to be resolved, were given common recognition.

- (1) Verification and conformation of each policy-based medicine network hospital with a close review based both on academic and medico-economical aspects
- (2) Resolution of the ability differentials between network hospital
- (3) Promotion of personnel exchange between the networks
- (4) Abolishment of motivation differentials for each network
- (5) Promotion of large-sized clinical trials with cooperation of NHO networks and extra-NHO networks
- (6) Construction of guidelines for each policy-based medical field
- (7) Assessment of clinical research activities in each field
- (8) Stable financial support both for clinical practice and clinical research activities

Though we could not reach a final conclusion and agreement, all participants of the symposium and speakers expect this symposium to further meaningful discussion regarding policy-based medicine in NHO.

(Key Words : policy-based medicine network, agency, national hospital and sanatorium, national hospital organization, reorganization)

国立病院・療養所は本年4月1日をもって独立行政法人国立病院機構として新たな出発を迎える。19分野にわたる政策医療の実施、展開は独立行政法人の要となる使命であり、その成否は今後の独立行政法人運営の方向を左右する。当然のことながら、成果は評価されることとなり、その指標として政策医療分野ごとに臨床評価指標が策定されている。

政策医療の展開は各分野に共通の方法と、分野別に特色のある個別の方法の組み合わせで行われることとなるであろうが、確たる方法論、システムの構築は一部を除いてほとんどの分野においてはこれからであろう。このシンポジウムでは各政策医療分野を代表するシンポジストの先生から政策医療ネットワークの現状についてご報告いただき、さらに4月からの独立行政法人化によってそれぞれの政策医療ネットワーク活動はどのような影響を受け、独立行政法人国立病院機構にどのように貢献して行くものか今後の自由な展開や期待についてお話しいただいた。

政策医療分野ごとに解決されなければならない課題と分野間の格差があり、個々の政策医療ネットワークを構成する施設毎の課題と格差がある。独立行政法人化にともなう制度設計もすべてが明らかにはなっていないこの時点で、それぞれのシンポジストに各分野での今後の政策医療の展開を総括していただくことは必ずしも容易ではなかったと思われる。演者の先生方にはご苦勞をおかけしたが、少なくとも国立病院・療養所の所属するすべての者は全国を網羅する政策医療ネットワークに大きな価値を見出し、独立行政法人化によって大きく飛躍的することを期待している。実際、このことはそれぞれの分野でのご発表の中で強調された。

さらにこれらの期待を実現するためには解決が必要な共通課題も浮かび上がってきた。政策医療を十分に展開し、国立病院機構が国民により認知されるためには質のよい医療を実践し、成績を積み重ね、それを公表すると共に、臨床研究の分野で成果をあげ、それを情報発信してゆくことであろう。全国を網羅する政策医療ネットワー

クを十分機能させるためには分野や施設毎の格差のない基盤整備，その予算措置が必要であり，とくに施設格差のない人的資源供給のためには施設間でのより積極的な人事交流も提言された。

医療経済的視点は勿論重要であり，今後の法人化の中核をなすものとなるが，全国を網羅した政策医療という共通目的に沿って努力を続けている地域の国立病院や療養所を活性化し，ネットワークの重要なメンバーとして活用してゆく努力もまた必要と考える。物心両面において，ネットワークを生かした法人全体のレベルアップが望まれ，その最大の戦略手段は政策医療の展開である。

独立行政法人化

最初に，厚生労働省健康局国立病院部国立病院・療養所組織編制推進室長の古都賢一氏からは独立行政法人国立病院機構の理念と全体像についてお話いただいた。独立行政法人国立病院機構は，国の企画立案部門を厚生労働省に置き，実際の医療事業部門を独立行政法人化することによって，民間に委ねた場合に十分実施されないおそれのある事業を効率・効果的に実施することを主な目的とすること。そのために独立行政法人制度ではこれまでの事前の統制主体から事を成した後の評価と効果検証に重点がおかれること。企業会計導入によって法人全体の運営が外部から評価されるだけではなく，法人を構成する150余りの病院個々の経営努力も外部から見ても理解が得られる形でその使命を果たさなければならないことが強調された。独立行政法人を契機にして，個々の病院が本当の意味で『自律』し，それぞれ担う政策医療での役割を十分果たすことによって，法人全体として政策医療ネットワークが構築され，国民が期待する医療政策が実施され，効果をあげてゆくことになろう。

政策医療ネットワーク各論

循環器，がん，血液，内分泌疾患の4分野からそれぞれ代表の方からご発表いただいた。がん医療領域について国立病院四国がんセンター副院長新海哲先生は，わが国においても evidence-based-medicine (EBM) の重要性が認識され，EBM に基づいた大規模な臨床試験を展開し，わが国における標準的治療成績の収集，解析によってがん診療の標準化を実現し，がん診療における質の保証を確保して公開することの重要性を報告した。その中で国立がんセンターと全国8ブロックの基幹病院と専門病院から構成されるがん政策医療ネットワークで扱う年間新規がん患者数はわが国における年間がん新規患者総数46万の10%にも相当し，これに全国がん（成人

病）協議会29施設からなるがんネットワークを加えると新規がん登録患者数は全国の20-25%を占め，それらを活用した大規模診療成績の収集・解析の研究班の現状について報告した。今後このネットワークを利用したがん登録システムの拡充，多施設共同プロトコルの策定と実施方法の確立によってわが国のEBMに準拠した診断・治療・追跡や診療技術の標準化に向けたガイドライン作成が期待される。

国立名古屋病院長齋藤英彦先生は，血液・造血器疾患ネットワークを北海道から九州まで全国10国立病院・療養所で構成したが，個々の施設の血液専門医数や設備に格差があり，とくに過去5年間の造血幹細胞移植例数には格差が大きいことを指摘。大規模臨床試験を実施するためには国立病院機構外の専門病院との連携の必要性和臨床研究のできる基盤整備の重要性を強調した。IRB，CRCなどの院内体制の整備と平行して，臨床研究センターや臨床研究部の器機・設備整備，運営経費，ネットワークを生かした症例の集積には電子ネットワークの整備が不可欠である。とくに研究費については競争的研究費の獲得努力をする一方，国立病院機構が臨床研究・情報発信・教育研修を積極的に推進するためには，臨床研究センターや臨床研究部の人件費や運営費とは別枠で少なくとも20億円の研究費を運営交付金の中にも含めるべきであると強調された。

国立京都病院長葛谷英嗣先生からは国立京都病院を中心に全国20の専門医療施設から構成される内分泌・代謝性疾患ネットワークの役割と法人後の展開について，特に国民病として対策が急務になっている糖尿病に絞ってご報告いただいた。国立京都病院臨床研究センターを核にした政策医療ネットワークが十分な成果をあげてゆくためには臨床研究のための環境整備と政策医療ネットワークの機能強化が大切である。国立病院機構が真価を發揮して行くためには政策医療分野毎に十分な研究成果をあげ，国の医療政策と医療の向上に貢献していこうという強い使命感が重要なことを強調された。

指定発言から

免疫疾患（リウマチ，アレルギー）領域を代表して国立相模原病院長越智隆弘先生は，従来のナショナルセンターのような1施設集中型ではなく，全国ネットワークをうまく利用すれば，特徴的な診療や臨床研究の発展が期待できる。始まったばかりの未成熟な政策医療ネットワークは法人によって大きく影響されるが，今後活発に展開して行くためには，不採算でも必要な分野には運営交付金などによる支援が必要である。ネットワーク構成

施設の見直しと、機能の格差を解決するために施設間での人的な流動を可能にし、全体が活発化できる体制が重要と提言した。

さらに指定発言として、骨・運動器疾患領域を国立療養所村山病院院長柴崎啓一先生、肝臓疾患領域を国立病院長崎医療センター院長米倉正大先生、腎臓疾患領域を国立佐倉病院院長柏原英彦先生、感覚器疾患領域を国立病院東京医療センター院長田中靖彦先生、成育医療領域を国立成育医療センター院長柳澤正義先生からそれぞれの分野を代表してご発表いただいた。

ま と め

政策医療分野毎に解決されなければならない課題と分野間の格差があり、個々の政策医療ネットワークを構成する施設毎の課題と格差がある。独立行政法人化にともなう制度設計もすべてが明らかにはなっていないこの時点で、それぞれのシンポジストに各分野での今後の政策医療の展開を総括していただくことは必ずしも容易ではなかったと思われる。演者の先生方にはご苦労をおかけしたが、少なくとも国立病院・療養所の所属するすべての者は全国を網羅する政策医療ネットワークに大きな価値を見出し、独立行政法人化によって大きく飛躍的する

ことを期待している。実際、このことはそれぞれの分野でのご発表の中で強調された。

さらにこれらの期待を実現するためには解決が必要な共通課題も浮かび上がってきた。政策医療を十分に展開し、国立病院機構が国民により認知されるためには質のよい医療を実践し、成績を積み重ね、それを公表するとともに、臨床研究の分野で成果をあげ、それを情報発信してゆくことであろう。全国を網羅する政策医療ネットワークを十分機能させるためには分野や施設毎の格差のない基盤整備、その予算措置が必要であり、とくに施設格差のない人的資源供給のためには施設間でのより積極的な人事交流も提言された。

医療経済的視点は勿論重要であり、今後の法人化の中核をなすものとなるが、全国を網羅した政策医療という共通目的に沿って努力を続けている地域の国立病院や療養所を活性化し、ネットワークの重要なメンバーとして活用してゆく努力もまた必要と考える。物心両面において、ネットワークを生かした法人全体のレベルアップが望まれ、その最大の戦略手段は政策医療の展開である。

(平成16年2月2日受付)

(平成16年3月19日受理)